

さくらやま便り

No.363号 2024年（令和6年）12月15日



クリスマスメッセージ



『人はパンのみにて生きるにあらず』

エッセイ

チャプレン 上前 至

2024年12月吉日

83年前の12月8日未明、日本海軍はハワイにある真珠湾に奇襲攻撃をかけた。これをきっかけに日米開戦がはじまり、いわゆる第二次世界大戦が世界を舞台にして大きく拡大していくことになったという。その当時の生の声を聞くことが、今日、困難となってきたが、その当時の経験を記憶して残していく事が、今日の我々が残された者の責務ではないかと最近強く思わされている。そこで、その生の声を聞いてきた者の一人として私自身の家族に起こった経験をここでお伝えさせていただきたい。

私の両親は、その真珠湾攻撃があった日、中国の上海にある外国人の租界地に住んでいたと言う。そこで父親は美術学校を出ていた事から絵の技術を買われ、従軍画家として陸軍広報宣伝部に所属し、当時としてはよい暮らしをしていたという。そこでは陸軍将校に

よる5・15事件で犬養首相暗殺に加わった将校もいたということでもある。そうした将校や、そのほかの当時の有名な兵隊の慰問に訪れてきて、そうした人達のお世話をし、交流を持っていたという事である。その頃はある意味、華やかな暮らしをしていたという事であるが、そうした生活が、あの真珠湾攻撃があった日から、ガラッと変わってしまったという。父親はやがて日本の戦況が悪くなっていく中で30歳を過ぎ

てから現地召集を受け輜重兵（しちようへい）として主に軍事輸送の任にあたったという。その兵隊生活は大変で古参兵から、理由もなく全員立たされ、よくピントをくらったという。父親は、戦いにでたら、この古参兵を後ろから撃つてやろうと思うくらいであったと言う。戦場にでて、その戦場に転がっている多くの死体から蛆虫がわいているのを見て、戦後、暫くは肉を食べる事ができなかったと言う。母親は、「お父さんは兵隊に取られてから人間が変わったよ」と言っていた。むべなるかなとも思われる。やがて日本は最終的に敗戦となって終結した。同時に父親も兵役解除となり日本に帰国することになった。そこで上海に残っていた家や財産は全て放棄し、当時の指導者・蒋介石の寛容政策もあって命は取られなかったが、裸同然で故郷に帰ることになったのである。丹波篠山に帰郷したが同時に、そこは同時に帰ってきた他の兄弟も多かったことから、住む家がなく、暫くは当時、廃舎になっていた練兵場校舎にテントを張って住んでいたということである。今にいう難民生活に近い生活を送っていたという事である。そうした状況の中で私は生まれた。今にして両親の苦勞がどんなに大変なものであったかを、私も子供を持った者として、その大変さに思いを馳せる者である。

さて、ここで時は大きく変わる。それは私がカナダのトロントで日系人キリスト教会に牧師として赴任していた時である。そこで私はシピさんというユーゴスラビアの隣のアルバニア共和国からカナダに難民としてやってきていた家族に出会ったのである。お母さんと、その息子、そして中学1年生（12歳位？）の可愛い女の子の一家であった。その家族にとっては成人した息子を中心として生きている家族であった。父親はその時どうしていたか定かではない。母国に一人残っていたのだろうか。その家族は母国でセブンスデー・アドベントの教会を知っていたようである。

それで私共日系人教会であるが、その看板をみて土曜日の礼拝日に参加出席されたのである。そしてその時、民族紛争の起こっている母国の事情と難民としてカナダに逃れてきた状況をお聞きした。お聞きしながら私は、私の両親、特に父親が経験した過酷な経験を思い出しながら聞いたのである。お聞きしながら私はこの家族の方達の為に少しでも助けになりたいと願ったのである。聞いた次の日に私はその家族の家を訪ねた。そこは家族3人が一緒に住むにはとても狭い部屋であった。4畳半程であろうか。こんな所で生活しているの？私は非常に驚いた。と同時に私は窓際にちよこんと腰掛けている小さな人形を見つけたのである。「これはどうしたの」と聞くと中学生の女の子が言った。「これはお兄さんが私のクリスマス・プレゼントとして買ってくれたの」と嬉しそうに答えたのである。そこにはクリスマス・ツリーも何も無かったが、その人形がクリスマス・プレゼントとして唯一存在していたのである。それはお兄さんが妹のために何とかお金を工面して用意したものであった。妹はそのお兄さんの気持ちを感謝して唯一のクリスマス・プレゼントとしてその人形を大切にしていたのである。私はその時、思った。人として大切な事は「物」ではなくて「心」であり、それも「暖かい愛の精神」がなければならぬ事を学ばされたのである。後日談になるが、この妹とお母さんは後日、私共の教会で洗礼を受けられ私共と同じ兄弟姉妹になられたことを報告しておく。



生活相談員から 主任 遠藤裕之

●行事予定

- 12月16日 ピアノコンサート（14時）
- 12月17日 消防設備点検
- 12月18日 避難訓練（13時半）
- 12月19日 ゆず湯
- 12月19日 エレベーター点検（15時から16時ごろ）
- 12月25日 クリスマスディナー
- 12月31日 年越しそば
- 1月1日 お祝膳

●ピアノコンサートについて

春に楽しい演奏を聴かせてくださったレ・スールのお二人が、また来てくださることとなりました。今回はクリスマスソングなどを演奏してくださいませ。会場は2階レストランです。演奏中はエレベーター側のドアは締め切りとさせていただきます。

●消防設備点検について

各お部屋に設置してある消防設備を点検致します。業者がお部屋に入らせていただきます。ご協力をお願い致します。

●避難訓練について

今回は夜間の火事を想定した避難訓練を行います。避難を促す放送が入るまでは、準備をしてお部屋でお待ちください。放送が入りましたら声を掛け合っただけで焦らずに避難してください。集合場所に避難できまじたら点呼を致します。「おはしも」（押さない・走らない・しゃべらない・戻らない）のご協力をお願いします。

●クリスマスディナーとお祝膳について

25日のクリスマスディナーは会食形式になります。お食事はテーブルにご準備します。ご参加が難しい方は、事前にご相談ください。元旦のお祝膳は、新年のごあいさつの後 お部屋にお配りします。

●感染性胃腸炎について

感染性胃腸炎は、例年12月の中旬ごろにピークとなります。この時期に発生する胃腸炎のうち特に集団発生の多くは、ノロウイルスによるものです。ノロウイルスを減らす最も有効な方法は、石けんと流水による手洗いの徹底です。手洗いの徹底は、インフルエンザなどの予防にも効果的です。みなさまのご協力をお願い致します。

●生活費等の改定について

横浜市から生活費等改定の通知がありました。詳細は来月の請求に合わせてお知らせいたします。

